

2020(令和 2)年度 学生教育改善会議 報告書

大阪大谷大学 FD 部会

1. はじめに

現在、日本の大学では、FD(ファカルティ・ディベロップメント：大学の教育内容や方法等に関する研究・研修を組織的に行い、教育改善につなげていく活動のこと)が義務付けられており、大阪大谷大学においてもさまざまな FD 活動を実施しています。基本的には、①学生のみなさんによる授業評価アンケートの実施とその集計結果に対する分析・考察・改善計画の立案、②さまざまなテーマに関わる教員研修、③ビデオ撮影した授業の自己評価、④教員間の授業参観制度の4つを柱としています。これらの諸活動は隔年で FD 報告書としてまとめられています。なお、2020 年度は、コロナ禍による授業形態の大幅な変更に伴い、③④は中断しています。

本学では、より効果的な FD 活動を実践していくために、2018 (平成 30) 年度より教職員と学生が組織する「学生教育改善会議」を設けました。この会議では、各学科・専攻から選出された代表学生(学生委員)にご協力をいただき、学生による FD 活動の検証のほか、日常的な授業や教育環境、カリキュラム等に関する意見交換を行っています。2020 (令和 2) 年度は、8名の学生のみなさんの出席のもと、8月24日(月)13:05より行い、活発な議論が行われました。

本年度の会議では、以下の項目について学生委員に意見を聞き取りました。

1. 授業評価アンケートの結果・考察について
2. FD 報告書に記載された授業評価アンケートの結果・分析について
 - ①授業評価アンケートの結果について
 - ②学部長・学科長からの授業評価アンケートに関する記載について
3. 遠隔授業の実施について
 - ①オンデマンド型遠隔授業について良かった点
 - ②同時双方向型遠隔授業について良かった点
 - ③オンデマンド型遠隔授業について良くない点
 - ④同時双方向型遠隔授業について良くない点
4. 授業に関する情報の発信方法についての要望
5. 今後の遠隔授業で望むこと

II. 会議の内容

1. 授業評価アンケートの結果・考察について

<学生委員からの意見>

- ・授業評価アンケートの結果がどのように反映されているのかを知りたかった。教員の考察を見ると、授業改善に努力するよう感じられる反面、設備の問題など教員の努力では解決できない問題があるように感じた。

<大学からの回答・コメント>

各教員による授業改善、大学による設備の充実を目的として、学生のみなさんの生の声を吸い上げるために授業評価アンケートを実施しています。設備等についてはすぐに解決できない問題もありますが、問題意識を学生のみなさんと共有したいと思っています。

授業評価アンケートの結果や教員による考察や自己分析については、見ている人が少ないようです。学生の意見を各教員が受け止めて学生へのメッセージも記述しており、履修登録の際にも参考になるので、ぜひ多くの学生のみなさんに閲覧し活用してもらいたいと思います。

2-①. FD 報告書内の授業評価アンケートの結果について

<学生委員からの意見>

- ・授業の実態を反映した記述になっている。私語や授業を抜け出す学生がいることに驚いている。学科によっては、学習に必要な資料や辞書を持ち帰ることが困難なため、準備学習が行いにくいと感じた。
- ・教職に関係する科目等において、複数学科の学生の受講により受講者数が増えると、学生の私語が目立つように感じる。

<大学からの回答・コメント>

複数学科にまたがる授業における私語の問題については、昨年度も同様に提起されています。引き続き検討をしていきたいと考えています。

教科書等については準備学習のためにぜひ持ち運びをしてもらいたいですが、持ち帰ることが困難な資料等を利用する場合には、空き時間を活用して大学内で準備学習をしましょう。

<学生委員からの意見>

- ・多くの授業では終了際にアンケート用紙が配布されるので、適当に回答している学生が多く、あまり実態を反映した結果ではないように感じている。
- ・授業の開始時などもう少し余裕をもってアンケートを回答させてはどうか。

<大学からの回答・コメント>

2020年度は遠隔授業が中心だったため、Webによるアンケートへの回答にしましたが、次年度以降も引き続きWebを用いたアンケートを計画しています。授業の実態を反映させるような回答形式を引き続き検討していきます。

<学生委員からの意見>

- ・自身が所属する学科では、学生全員が学びたいと感じており、出席も良好で、意欲も高いと感じている。したがって、出席や意欲に関する設問の回答結果は、授業の実態を反映した内容になっている。

<大学からの回答・コメント>

今後も、授業の実態を正確に把握できるようなアンケートができるよう、実施方法や設問について検討を重ねていきます。

2-②. FD 報告書内の学部長・学科長からの授業評価アンケートに関する記載について

<学生委員からの意見>

- ・高い専門性を保つには授業外の学習が不可欠であるが、学生は授業内の学習で完結してしまっているという指摘があった。資格を取ることが目的化していることが多く、その資格を生かして働くことを考えているかどうかで意気込みが違うこともあるので、この指摘には共感できた。

<大学からの回答・コメント>

単位を取るため、資格をとるためだけでなく、自分の力をつけて将来どのようにその力を生かしていくのが重要です。同じ授業を受けていても、目的意識の持ち方次第で得られるものも違ってくるでしょう。

<学生委員からの意見>

- ・後期は出席が悪くなる。授業外学習については、提出する課題を人に見せてもらって書く人もいるようなので、そのような学生が多いことが反映された結果になっている。
- ・授業時間外学習の時間が低い数値になっているが、履修科目が多く実習があるので妥当なところと考える。
- ・不本意入学が出席率と学習意欲を下げているとの記述があるが、不本意入学であってもなぜ最善を尽くさないのかがわからない。
- ・アルバイトや課外活動などで授業時間以外の学修時間が確保できない点がある。本学部では教員になる学生が多いので、学習の習慣付けは必要である。

<大学からの回答・コメント>

学年が進むと、学習の忙しさが増してくることが予想されますが、授業外での学習は欠かせません。アルバイトや課外活動があって学習時間がとれないというのは本末転倒です。何を優先すべきかを考えて行動してください。

3-①. オンデマンド型遠隔授業について良かった点

<学生委員からの意見>

- ・通学にかかる時間を節約し学習にまわすことができ、遠方から通学する学生は早起きする必要がない。
- ・授業の動画がしばらく残るため、わからなかった箇所をくりかえし視聴したり、事後学習に活かしたりできる。
- ・アルバイトやクラブ活動がある場合に、自分の都合のいい時間に学習できる。
- ・これまで授業内に時間のないなかで行っていた課題について、じっくり取り組んで提出することができる。

<大学からの回答・コメント>

2021 年度以降も一部でオンデマンド型授業が継続します。学生のみなさんにとって都合の良かった点を改めて分析し、対面授業と変わらない学習効果をもたらすオンデマンド型授業の方法を検討していきます。

3-②. 同時双方向型遠隔授業について良かった点

<学生委員からの意見>

- ・発表の際、他の受講生の表情を見ながら発表が行える。
- ・複数のデバイスがあれば、Zoom 用、資料提示用に分けて使える。
- ・ゼミでは、対面授業に近い形で行え、メンバーの意見を共有することができる。
- ・コロナ禍で人に出会う機会が少ないなか、同時双方向型授業は気分転換になり、生活習慣をもとに戻すことができる。

<大学からの回答・コメント>

2021 年度以降も一部で同時双方向型授業が継続しますので、学生のみなさんにとって対面授業と変わらない学習効果をもたらす授業の方法を引き続き検討していきます。

3-③. オンデマンド型遠隔授業について良くない点

<学生委員からの意見>

●授業そのものについて

- ・資料だけ提示される場合があり、大学の授業なのか疑問に感じる授業があった。
- ・顔の見えない授業では一方通行のような印象になってしまう。
- ・動画を見ながらノートをとると 90 分では収まらない。
- ・授業動画の公開が遅れることがあり、学習が妨げられ、学習のリズムも崩れる。動画資料の公

開時期や期間、課題の受付期間などは統一してもらいたい。

- ・出席確認の方法や成績評価方法を授業の後半で初めて説明があった。授業内でシラバス閲覧の指示もなかった。
- ・動画の視聴を持って出席とみなす授業があり、自身ではそれが確認できないためやめてもらいたい。

●教材について

- ・動画の音声が悪く乱れていたり、字幕が整っていない場合、どちらからも正確な情報を受け取ることができないことがある。
- ・授業によって音声レベルが異なり、イヤホンなしでも聞けるようにしてほしい。
- ・モスキート音のような音が出ている授業があり、指摘してもなかなか改善されず、その原因で友人が体調不良になってしまった。

●コミュニケーションについて

- ・質問したいときにすぐできず、メールや掲示板での質問は回答に時間がかかってしまう。
- ・学習内容について不明な点があると、教員とはメールで時間のかかるやりとりしかできず、また友人との会話が少なく不安である。

●学習環境について

- ・図書館で調べたいことがあっても等学できない時期には利用できなかった。
- ・資料の印刷を求める授業については家庭によって状況が異なるので改善してもらいたい。
- ・パソコンを所持していない学生にとっては学習できないこともある。Word で提出するよう求められても Word を持っていないと難しい。

●システムについて

- ・tani-WA の制限（ファイルアップロード制限）があり、音声ファイルを送ることができなかった。
- ・動画が再生しづらい時間帯があった。

●健康について

- ・目の疲れや肩こりを感じる。
- ・授業時間以上の動画もあり、授業外学習だとわかっているにもかかわらずほぼ1日パソコンを見続けることになり、疲労する。

<大学からの回答・コメント>

2020 年度前期は、コロナ禍への対応から遠隔授業の実施に踏み切ったため、各教員が手探り状態のなかで授業を実施せざるを得ませんでした。すべての不満や不安な点に対して対応できるわけではありませんが、2020 年度後期以降、教材の作成や授業の進め方、教材の公開時期・期間等について、必要最小限のルールを設定し、各教員に依頼してきました。2021 年度以降も一部でオンデマンド型授業が残りますので、このルールに則って、学生のみなさんにとってより望ましい授業形式を検討していきます。

3-④. 同時双方向型遠隔授業について良くない点

<学生委員からの意見>

- ・通信環境が悪いと、スムーズに受講できないことがあり、教員の説明もわからないことがある。動画を録画しているのであれば、それも公開してもらいたい。
- ・学生・教員とも Zoom を使うことに不慣れな場合もあり、画面共有がなかったり、音声流れなかったりといったことがあった。
- ・同時双方向型授業の時間帯に通学時間と重なるので、改善してもらいたい。
- ・同時双方向型授業と対面授業が重なったものがあった。
- ・顔を出していても細かい表情までは読み取れない。また、ディスカッションの際には、対面授業のときのような雰囲気がかみづらかった。
- ・会話や説明が途切れることもあり、言い直す時間がもったいなく、集中力も途切れてしまう。
- ・カメラとマイクがない人が発表する際に、教員に資料を渡して、教員が代わりに発表するという形をとったが、評価がむずかしいのではないか。
- ・パソコンに Teams のソフトウェアをダウンロードすることができず、スマートフォンで対応せざるを得なかった。

<大学からの回答・コメント>

同時双方向型授業と対面授業や通学時間の重なりについては、そのような学生に対して可能な限り配慮するようにしました。2020 年度後期は大学内に Wi-Fi 環境を整え、大学内で同時双方向型授業を受講できるようにしています。通学時間帯と重なる場合、あるいは家庭での通信環境が良くない場合は、大学内での Wi-Fi 環境を利用するようにしてください。

4. 授業に関する情報の発信方法についての要望

<学生委員からの意見>

- ・提出した課題に対して、それが正しいのかどうか不明な場合もあるので、フィードバックをしてもらいたい。

<大学からの回答・コメント>

課題等に対するフィードバックについては、遠隔授業か対面授業かに関わらず、引き続きすべての教員にお願いをしているところです。

<学生委員からの意見>

- ・授業開始時刻までには教材をアップしてもらいたい。
- ・15 分の動画の視聴に 40 分かかることもあった。通信環境に差があるので、動画のサイズをなるべく小さくしてもらいたい。

<大学からの回答・コメント>

学生によって望ましい形（たとえば動画の時間など）がさまざまあるようですので、全員にとって望ましい実施方法を設定することは難しいですが、学生のみなさん方からのご意見をふまえて、教材のアップロードのタイミングや視聴可能期間の設定など、遠隔授業に関するルールの設定を行っているほか、教員対象の研修も実施しています。

<学生委員からの意見>

- ・tani-WAのコースニュースはタイトルのみメールで送られてくる。メール本文に内容も含めてもらいたい。また、受け取ることが可能な通知メールを選択できるようにしてもらいたい。

<大学からの回答・コメント>

tani-WAは外部業者によるシステムであり、通知の方法などについては、対応が難しいと思われる。学生のみなさんにとって重要なお知らせを読み飛ばすことがないように、その都度tani-WAにアクセスして内容を確認してください。

5. 今後の遠隔授業で望むこと

<学生委員からの意見>

- ・大学内でのWi-Fi設備を整備してもらいたい。
- ・自宅等で印刷をしなければならない場合には、用紙の節約ができるような配慮を求める。
- ・動画や資料の閲覧期間を長くともってもらいたい。
- ・遠隔授業でも理解しやすい資料作りをお願いしたい。

<大学からの回答・コメント>

Wi-Fi環境については、別項で回答している通り、2020年度後期以降に大学内での環境整備を行なっていますので、環境のある場所を把握したうえで空いているところで学習を行なってください。

用紙を節約する場合には、2アップ、4アップ（用紙1ページあたりのスライド数）等による資料を提示している場合もありますが、PDF文書であれば、1ページあたり1スライドであっても、2アップ、4アップ等で印刷することが可能ですので、その方法を利用してください。

教材の閲覧期間については一定のルールを設けているところですが、動画教材については、動画サーバに容量の限界があり、いつまでも教材を残すことができません。また、学習習慣を崩さないためにも、教材公開後できるだけ早い時期に学習するようにしてください。

<学生委員からの意見>

- ・質問をメールでしなければならないとき回答を早めをお願いしたい。
- ・障がいのある学生に対する配慮（動画資料への字幕情報の整備など）を行ってもらいたい。

<大学からの回答・コメント>

いずれも各教員にお願いをしていますが、対応がなされない場合は教務課にお知らせください。

III. 総括

学生教育改善会議を通して、大学が取り組まなければならないことは、以下の3つに集約されます。

1. 授業評価アンケートの効果的な実施と活用について

授業評価アンケートについては、学生委員のみなさんからはその意義について十分認識しているようでしたが、的確な回答を得られていないのではないかとの指摘も複数ありました。2020年度よりWebを利用した実施に切り替えたところ、予想はされましたが、回答率が低下しました。その実施方法や設問内容について継続的に検討を行い、自由記述への回答も含めてすべての学生のみなさんが真摯に取り組めるようにしていく必要があります。

2. 学習意欲の喚起について

授業外学習時間の少なさは学生委員からも指摘がありました。日本のほとんどの大学が抱えている課題でもあります。その一つの要因としては学習意欲を喚起できていないことにあるといえます。一部の授業においては、シラバスや授業のなかで教員が伝えている各授業の目的や学習の面白さが学生に理解されていない、つまり動機付けが十分になされていないといえます。シラバスへの十分な記載のほか、フィードバックや質問への迅速な回答の必要性や効果、工夫等についても、あらためて教員間で共有していくべきと考えています。

3. 遠隔授業の実施について

2020年度に実施した遠隔授業は、2021年度も部分的に継続します。手探り状態の中でスタートした遠隔授業でしたが、その利点も欠点も明らかになってきています。全面的な対面授業の復活が望めない状況のなか、遠隔授業を対面授業と遜色のない形式で実施していくことが求められます。その実現には、教員が得た遠隔授業の方法論だけでなく、学生のみなさん方が経験したことも極めて貴重な材料になります。今後も望ましい遠隔授業のあり方について、大学と学生のみなさんとの間の意見交換を継続していきたいと考えています。

最後に、当日の会議に参加され、活発な議論をしていただいた8名の学生のみなさまには、厚く御礼申し上げます。